

開講年度・学期	2017年度・後期	授業形態	演習
科目名	演習論文（国際政治）	科目ナンバー	JASEM3305
英語表記	Thesis Seminar on International Politics	担当教員	永井 史男
単位数	2		
科目の主題			
国際政治に関する論文執筆			
授業の到達目標			
社会科学的情問いに基づく論文の執筆			
授業内容・授業計画			
<p>「国際政治演習」のシラバスでも説明したように、国際政治演習では後期研究報告をもとに、「ゼミ論」を提出してもらふ。この「ゼミ論」提出が演習（4単位）及び演習論文（2単位）双方取得の必須条件である。逆に言えば、「ゼミ論」の提出がなければ、「国際政治演習」（4単位）の単位は原則付与されない。</p> <p>演習論文単位取得の形式的要件は、① 字数（注を含め8千字程度～1万3千字程度）を満たしているかどうか、② 社会科学的情論文としての体裁を満たしているか、③ 「論文」として内容が備わっているかどうか、以上3点である。ただし、②については、取り上げるテーマによっては社会科学的情問いの設定が難しい場合もあるので、先行研究や論点をとりまとめた「報告書」的情論文も可とする。提出期限は1月末である（正確な日付は年度によってやや異なるので追って知らせる）。なお、優秀な論文については、担当教員の判断で学生論文コンクールの応募に推薦するので、その場合にはさらに1月かけて修正作業を行ってもらふ。その修正作業にあたっては、大学院生の Teaching Assistant (TA)による論文指導も含まれる。</p> <p>本授業の内容としては、① テーマ設定とゼミ論に使用したい基本書の選定、報告、② 学情センターでの文献検索、③ 方法論の学習、④ ゼミ論報告（2回）、⑤ パワーポイントを使った最終報告（ゼミ最終回）である。ゼミ論報告は最低2回行う必要がある。2回の報告で執筆許可が下りて初めてゼミ論執筆を始められるが、執筆許可が下りない場合には、3回目、場合によっては4回目の報告が求められる。</p>			
事前・事後学習の内容			
各回とも受講生に報告の担当が回るほか、共通のテキストを読み進めるので、事前学習は必須である。ゼミ受講後に新たな文献を読む必要に迫られるのが通常なので、事後学習も必然的に行うことになる。			
評価方法			
ゼミ論の提出及びその出来栄			
受講生へのコメント			
ゼミ論報告の前には、事前に担当講師にレジюме（案）を提出してもらふ（約1週間前）。また、担当講師と個別に、テーマ設定や議論の方向性について電子メールによるやりとりや直接的な面談を頻繁に行うことになる。			

教材

高根正昭『創造の方法学』講談社現代新書、1979年

久米郁男『原因を推論する』有斐閣、2013年

加藤淳子、境家史郎、山本健太郎編『政治学の方法』有斐閣、2014年

その他

文献の収集と読破、論文の構想・執筆には多大の時間がかかるので、特に後期は十分な空き時間をとっておく必要がある。

履修可能最低年次

3年次生以上